

“みんなが幸せに住める” 串間市を作るために

(目次)

1. 串間市の概要
2. 地域包括ケアに向けた体制（現在）
3. “まるっとみんなの会議”（協議体の卵）について
 - (1) 会議設置までの経緯
 - (2) 会議の概要
 - (3) 会議の開催内容
4. 今後に向けて
5. まとめ

平成27年2月

宮崎県串間市 医療介護課

1-(1)串間市の概要



宮崎県の最南端に位置

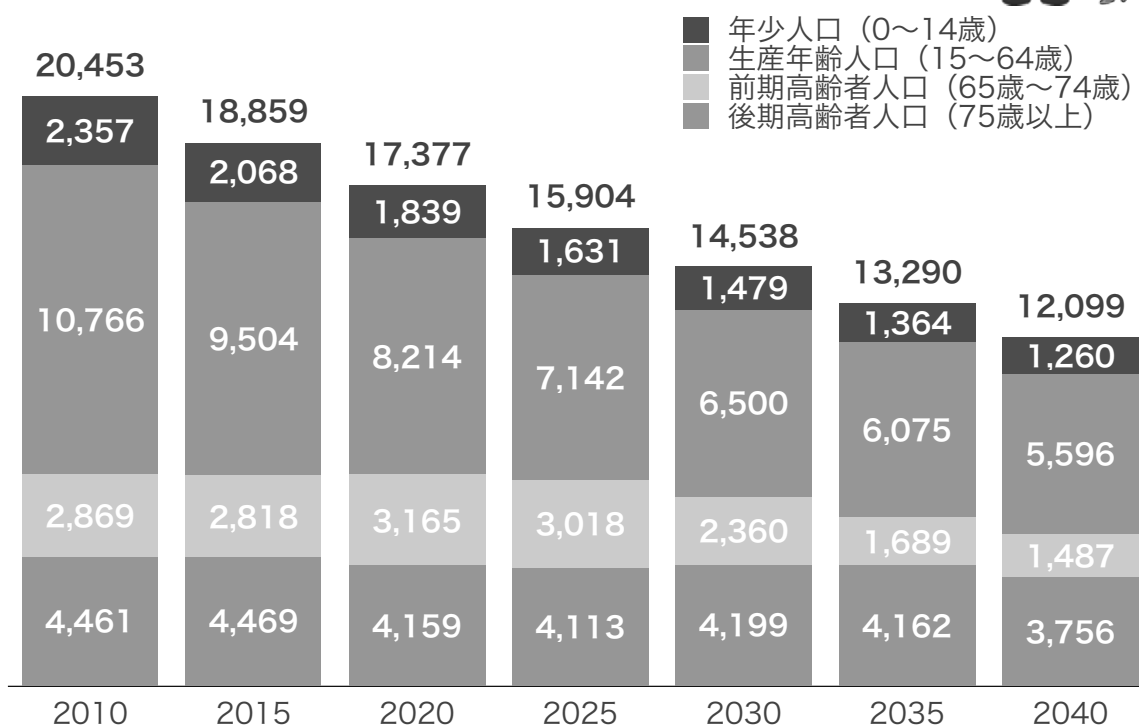
- 人口：20,089人（H26.11末：住基）
- 65歳以上：7,346人（**36.6%**）
- 75歳以上：4,524人（**22.5%**）

※地域別の高齢化率

福島地区：31.7%	本城地区：45.4%
北方地区：35.3%	都井地区： 50.6%
大東地区：38.2%	市木地区：49.9%

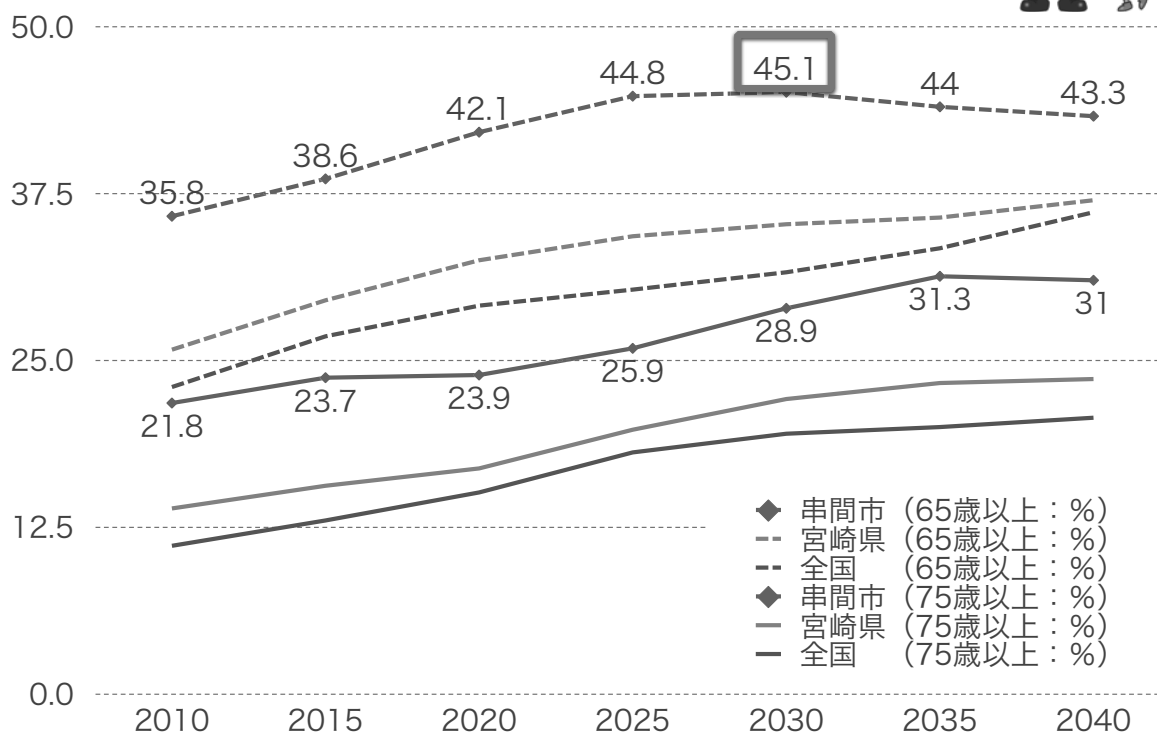
- 地域包括支援センター：1カ所
※串間市社会福祉協議会へ委託
- 日常生活圏域：1つ（市全域）
- 要介護等認定率：**21.4%**（県内ワースト）
- 消滅可能性都市に該当

1-(2)串間市の将来人口（推計）



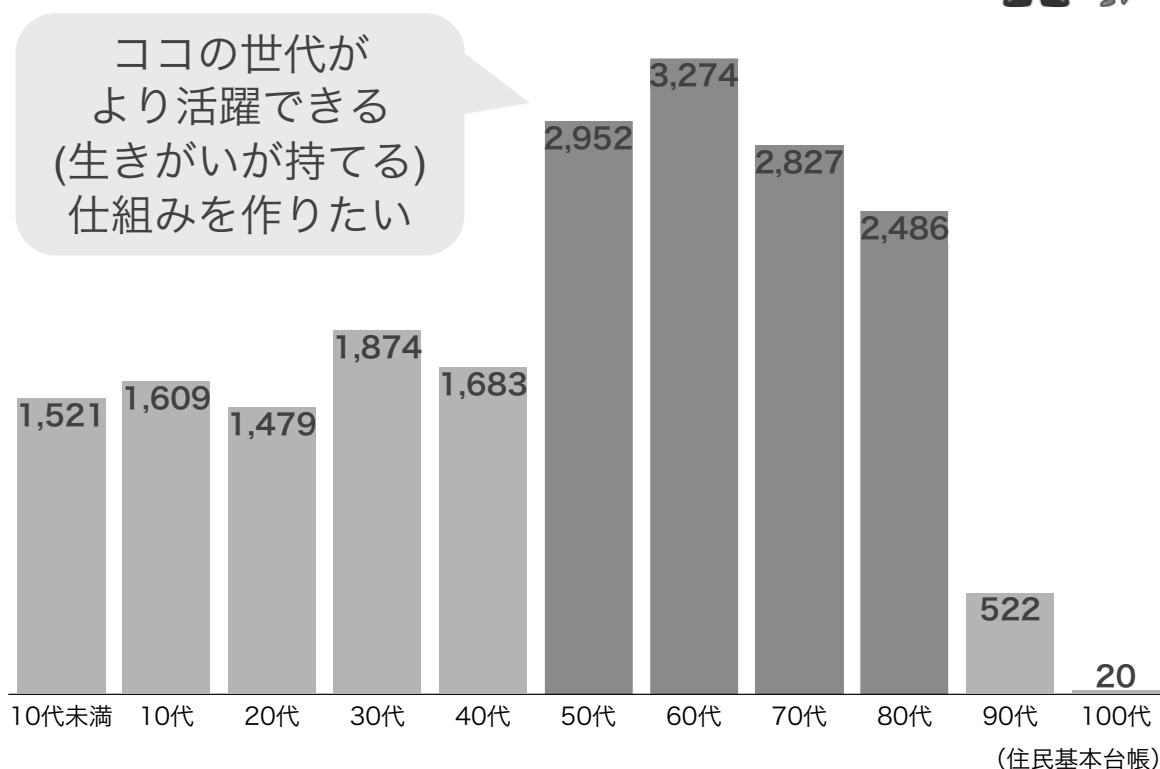
（国勢調査／国立社会保障・人口問題研究所資料から作成）

1-(3)串間市の高齢化率の推移



（国勢調査／国立社会保障・人口問題研究所資料から作成）

1-(4)串間市の人口構成（年代別）



2. 地域包括ケアに向けた体制（現在）



①個別課題解決 ②ネットワーク構築 ③地域課題発見 ④地域づくり・資源開発 ⑤政策形成

企画 構成	会 議 名		会 議 の 主 な 目 的	会議の機能				
				①	②	③	④	⑤
市	高齢者保健福祉計画等審議会		・ 高齢者保健福祉計画の策定 ・ 介護保険事業計画の策定					●
	地域 ケア 会議	地域ふれあいケア会議	自治会、団体の市全体レベルの課題解決に向けた取り組みを検討、実施する。				●	●
		小地域ケア会議 (各6地域)	自治会、民生委員、高齢者クラブ、健康づくり推進員、食生活改善推進員、生涯学習指導専門員、事業所の地域代表者で地域課題の解決に向けた取り組みを検討、実施する。		●	●	●	
		個別ケース会議 (地域包括支援センター)	市民やケアマネ等から相談された個別事案の解決に向け、他職種で支援策を検討、実施する。	●	●	●		
	包括保健医療福祉推進会議		串間市民病院、保健・福祉部局の連携体制づくり					●
	事業所・支援センター連絡会 (地域包括支援センター)		・ 介護支援専門員、訪問・通所事業所ごとに連絡会を開催。情報共有、質の向上の勉強会等を行う。 ・ 子ども・障害・高齢者・生活困窮の支援センター ・ 合同による情報共有、勉強会等を行う。		●			
医師会	在宅ケア研究会（南那珂医師会）		医療機関等・介護事業所の事例研究の場		●			
市民	まるっとみんなの会議 ※地域づくりの主体。 協議体としても機能する。		・ 全ての世代が関わる地域づくりを行う。結果として高齢者の生きがい、社会参加を促進し、生涯現役となれる元気な高齢者を増やし、地域活性化を図る。 ・ 市民有志により構成。自ら地域づくりを企画、検討実施まですべてを行う。行政等と連携する。 ・ 支え合い・助け合いの地域づくりリーダーを発掘。		●		●	

串間市の地域づくり体制（イメージ）



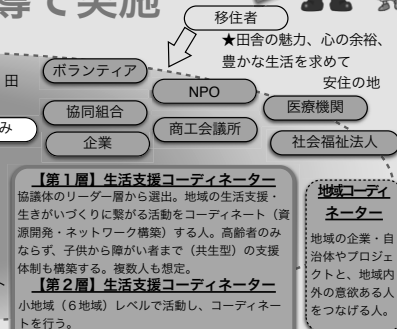
行政主導で実施

地域ケア会議 地域のマーケティングツールとしての活用。
現在は高齢者事例を対象として開催。今後は全世代の地域課題を対象とするように発展的に見直ししていく。



小地域ケア会議で出された地域課題(抜粋)※高齢者事例
【人のつながり】一人暮らしを訪問しても開けてくれない。地域の見守り隊が必要。民生委員も大変である。サロン会や高齢者クラブでのリーダーがいらない。サロンは参加者が固定化。地域に出ない人は施設入所等につながる人が多い(地域に出て行く人間は少ない)。集まりに出てこない人(閉じこもり等)への対応。参加したいけど参加できない人がある。配偶者がなくなったことで閉じこもりになる人が多い。特に男性が多い。自治会長さんも動機がある。家族が帰省後の安全確認等が心配。サロン会加入者が少ない(役割が嫌だ)。【環境】認知症の疑いへの対応。孤独死。災害時の避難。高齢者クラブの活動に内容がない。サロン会がなくなり、いくところがない。さわやか学級の送迎。移動手段がない。コミュニティバスの時間。デイサービスのマンネリ化。週に1回しかバスが来ない。奉仕作業をできる人が減っている。助成金がなくなると活動をやめてしまう。災害等の避難(車椅子等準備している)これからサロン会を立ち上げるのは難しい。【生活】草刈りをする人がいない。ゴミ出し。通院が出来ない。趣味等がないと交流もない。移動スーパーの場所・場の確保。配食サービス。買物。

市民主導で実施



「まるっとみんなの会議」

協議体機能 地域ケア会議で明らかになった地域ニーズと地域資源の状況を把握しながら地域と連携して下記の取組を総合的に支援・推進する。

- ①地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起
- ②地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけ
- ③関係者のネットワーク化
- ④目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一
- ⑤様々な活動の担い手の養成・開発(担い手の育成し支援・地域づくり活動へつなげる機能) 等々。



「地域づくり・資源開発」機能

行政・包括支援センター・社会福祉協議会

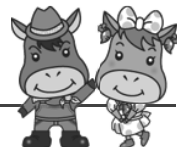
支援

全地域活性化

中心市街地

全地域活性化

3-(1)「まるっとみんなの会議」設置の経緯



串間市の状況

- ・人口減少(年少、生産年齢人口が大きく減少)に対する危機感(消滅可能性都市)。
- ・地域の支え合い機能そのものの維持が困難となる恐れ。
- ・高齢化、経済の衰退等による地域の疲弊感。(介護保険云々よりこっちが気になる。)

平成25年度 介護保険制度改正案の内容が徐々に明らかに

- ・地域支援事業の改正、ボランティア…協議体…生活支援コーディネーター…
- ・どこから? どうやって? 何から始めれば…?

平成26年3月7日 「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」へ参加

- ・これは支え合い、助け合いによる“地域づくり”そのもの

「新たな地域支援事業に対する基本的な考え方(新地域支援構想会議)」

“助け合い活動について、公的福祉制度の代替ではなく、活動を通して孤立している人々とつながり、その人と地域社会とのつながりを回復するという、住民・市民自身の活動であるからこそ可能な固有の働きを持っている”

“地域社会の助け合いを基本とする活動は要支援等の高齢者のみに限定することは不可能であり、子ども、障害者も含め、福祉制度の分野にかかわらず、幅広く対応している”

“助け合い活動は…(中略)…地域社会づくりと合わせ、その総合的な推進を図ることが必要”

⇒これは何か大事になりそうだ(チャンス!?)

制度のこともあるし、どうせやるなら早いうちに、やったほうがいい。

串間を「どんげかせんといかん」と思っている市民を集めてみよう!

3-(2)まるっとみんなの会議の概要



1. 目的

赤ちゃんからお年寄りまで“まるっと”幸せで住みよい串間市を実現するため、自ら企画し、検討し、準備、行動できる市民主導型の市民会議。

2. メンバー

市民有志

- ①一般市民
- ②団体（ボランティア、NPO法人）
- ③事業所（介護支援専門員、従事者）
⇒広く呼びかけ、手を上げた市民が参加。
⇒充て職による組織ではない。
⇒専門職の参加で助け合い活動を自然と提案。

★こんな方が引っ張っている！

- ・ボランティアに携わっている方
- ・普段から地域づくり活動に携わっている方
- ・都会からのUターン者（田舎の人のつながりを実感している方）
- ・高齢者の実情を知るケアマネさん
- ・元気なおばちゃん！

3. 運営

長期的なスケジュール感の中でビジョンを明確にして市民の意思決定で進める。

＜現在＞行政による場の提供と進行。でも意思決定は必ず市民。

⇒規範的統合が不可欠（重要）。参加者の考え方、認識、ビジョン、価値観、理念を統一・共有することが出発点。
（串間市の現状、課題、地域ニーズ、地域づくりの仕組み等）

＜今後＞市民による進行、企画、準備、行動。将来的に自立運営を目指す。

⇒できれば、会議そのものを団体化又は法人化できるよう自立させたい。
⇒第6回目の開催でメンバーの総意と本人の意思でリーダーが決定。

3-(2)まるっとみんなの会議の概要



4. 開催頻度

会議の定着を図るため、
毎月第1木曜日18:00～(2H)

5. 立ち上げまでにやったこと

- ①地域包括支援センターと社会福祉協議会に共催の協力依頼。
- ②各部署(福祉事務所、企画政策、協働推進担当等)への周知。⇒引き続きの課題。
- ③自主的な参加者を集めるため、市内全戸(8,000戸)に右の募集チラシを配布。

6. 特に意識したこと

- ①動員をかけない。
⇒あくまでも自然に集める。強制しない。
- ②必要以上に手を出さない。
⇒自己決定で「やらされ感」を持たせない。
- ③規範的統合に時間をかける。
⇒地域づくりの方向性を一つに。
⇒市民主導とはいえ、行政には目的がある。

赤ちゃんから高齢者まで まるっと！

これからの時代を考えて この串間で

ずっと幸せにくらしていくには どうすればいいか???

を考える仲間を募集します。

あなたも一緒にやりませんか！！

まるっとみんなの会議

初回テーマ「何から考えるか、を考える！」

ファシリテーター 公益財団法人さわか福祉財団
さわかインストラクター 初鹿野 聡
(NPO 法人みんなのくらしターミナル代表理事)

平成 26 年

7 月 3 日 (木) 18:00～20:00

【場 所】串間市総合保健福祉センター 2 階研修室

【対 象】串間市民（無料）

【申込み】事前にお電話又は FAX で下記の連絡先までお申込み下さい。

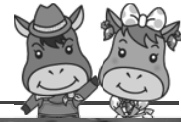
共 催 串間市、串間市社会福祉協議会、串間市地域包括支援センター
協 力 公益財団法人さわか福祉財団、NPO 法人みんなのくらしターミナル

＜連絡先・お問い合わせ＞ 串間市医療介護福祉課
TEL/0987-72-0333 FAX/0987-72-0310 E-MAIL/kaigo@city.kushima.lg.jp

参 加 申 込 書	
氏 名	
連絡先	住所:
	電話:

※お電話・メールの場合は、上記事項をお伝えください。

3-(3)まるっとみんなの会議の開催内容



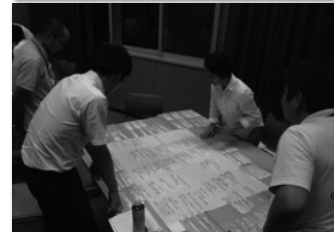
第1回（7月3日）参加者59名

- ①講話「自殺、犯罪の背景にあるものは、孤独」
・孤独を解消するためには人のつながりや生きがいが必要。
- ②グループワーク「理想の串間市」…ブレスト法
⇒約300の意見が出た。（意見出しで終了）



第2回（9月4日※8月は台風で中止）参加者53名

- ①講話（人の繋がり・助け合いの今と昔）
・昔は家族内でお年寄りや赤ちゃんの世話ができていた。
しかし、社会が変わり昔のように戻れない。
・今はスマホの時代。指一本で部屋に閉じこもっていても繋がれる時代となった。一方で、リアル社会でつながりの希薄化が進む。心の孤独は反対に強まる一方である。
- ②グループワーク「理想の串間市像の整理」
⇒約300の意見全てを自由に整理し、発表。



無い物ねだりの会議でないことをしっかりと伝えていくことに注力。

意見は多方面にわたっており、規範的統合の必要性を再認識。

⇒企業誘致・箱物整備・観光整備などの分野まで及んでいた。

地域活性化を皆が望んでいる事は理解できたが、問題はそれを実現する手法であり、自分たちが出来ること、支え合い・助け合いの仕組みづくりができれば、地域づくりにつながることを伝える必要があった。

⇒でも、それをただ言うのではなく、気付いてもらう必要がある。

3-(3)まるっとみんなの会議の開催内容



第3回（10月2日）参加者41名

- ①グループワーク「「幸せ」ってなんだっけ」

第4回（11月6日）参加者34名

- ①グループワーク（※前回の続き）
- ②グループワーク「自分たちの取組みの柱を考える」
・はしごをかけ違わないように目的地をはっきりさせてから旅立つことが大事。



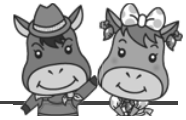
自分たちが本当に求めているものは何か、どうすれば幸せになれるのか、気づいてもらう。
⇒実は、地域づくりの根底にある大事なもの。

第5回（12月4日）参加者20名

- ①全体ワーク
⇒グループワークで共通的要素（人のつながり、健康、環境、経済、尊厳）が見えた。
今後の取組みの方向性を5つの行動の柱とし、宣言という形でまとめた。

（※参考）「幸せ」なこととは？（抜粋）⇒医療不安のない串間。自分が人のために手助け出来る事。買い物弱者に優しい町。人とのつながり居場所。やりたい事ができる（生きがい）。生活費を気にせず暮らしていける串間市。串間市民皆ハートフルでおせっかい。新鮮な野菜や魚など安全に食することができること。孤独じゃない。海の幸、山の幸など地元の食べ物がとてもおいしい（安く買うことができる）。倒れてもご近所が気付いてくれる。外から来た者にわかる（地元にいる人は気付かない）良さ（人のつながり）を感じる。最低限のお金がある幸せ。生きがいを持って働ける場所がある。自分の望む最後を迎えられる環境がある（尊厳）心の安らぎを実感出来る地域社会を創る。家庭や社会で孤立せず、つながっている。高齢者の一人暮らしになっても安心して住める。

2014串間まるっと幸せ！よかとこ宣言



まるっとみんなの会議は、市民のつながりを基盤とした地域づくりを推進し、子供からお年寄りまでまるっとみんなが住み慣れた地域で安心して幸せに住み続けることができる故郷串間を創造するため、次の5つを取組みの柱にすることを宣言します。

(人とのつながり)

1. 私達は、日々の助け合いにより人と人とのつながりを深め、子供から高齢者がふれあえる共生型のまちを創ります。

(心と体の健康)

2. 私達は、笑顔で元気にだれもが生きがいをもって健康づくりを楽しめるまちを創ります。

(環境)

3. 私達は、地元の海の幸・山の幸など美味しいものを食べ、自ら遊び次の世代へ伝えることなどで、自然を活かし守ります。

(経済)

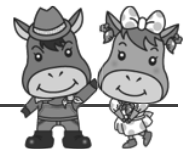
4. 私達は、海や里山の持つ宝を活かし、地産地消、資源の活用・交換など、お金だけに依存しない、地域で豊かさを回し生み出す仕組みを作ります。

(尊厳)

5. 私達は、全ての世代が自分らしく生きることを大切にし、帰りたいと思えるまちをつくりまします。

まるっとみんなの会議 (2014.12.4 宮崎県串間市民会議)

3-(3)まるっとみんなの会議の開催内容



第6回 (平成27年1月8日) 参加者30名

①PR戦略を考える。

- ・市長への宣言セレモニー (1月19日)

⇒経過報告と行政への認識と

- ・市民への活動報告会 (4月頃) をメンバー自身で行う。

⇒市民に思いを伝え、活動を広げる。

②活動拠点を考える。

⇒活動拠点として「集いの場 (⇒比較的、簡単に始められる。)」を検討。

市長への宣言セレモニー (1月19日)

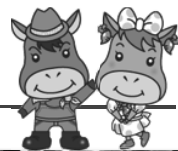
①メンバーが市長、副市長へ趣旨と行動の柱を宣言。

②フリートーク。市民と行政に連携が広まることを期待。

③最後に記念撮影。(このときの気持ちを忘れないでしよう！)



(参考)地域課題の状況（小地域ケア会議より）



1. 小地域ケア会議で出された地域課題(抜粋)

【人のつながり】一人暮らしを訪問しても開けてくれない。地域の見守り隊が必要。民生委員も大変である。サロン会や高齢者クラブでのリーダーがいらない。サロンは参加者が固定化。地域に出ない人は施設入所等につながる人が多い（地域に出て行く人間は呆けない）。集まりに出てこない人（閉じこもり等）への対応。参加したいけど参加できない人がいる。配偶者が無くなったことで閉じこもりになる方が多い。特に男性が多い。自治会長さんも勤めがある。家族が帰省後の安否確認等が心配。サロン会加入者が少ない（役割が嫌だ）。

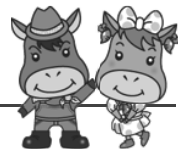
【環境】認知症の疑い人への対応。孤独死。災害時の避難。高齢者クラブの活動に内容がない。サロン会が無くなり、いくところがない。さわやか学級の送迎。移動手段がない。コミュニティバスの時間。デイサービスのマンネリ化。週に1回しかバスが来ない。奉仕作業をできる人が減っている。助成金がなくなると活動をやめてしまう。災害等の避難（車椅子等準備している）これからサロン会を立ち上げるのは難しい。

【生活】草刈りをする人がいない。ゴミ出し。通院が出来ない。趣味等がないと交流もない。移動スーパーの場所・場の確保。配食サービス。買物。



地域も課題を認識しているが、解決の糸口をつかめない。

(参考)地域課題の状況（その他）



2. 福祉行政部署の意見（抜粋）

(1) 障がい者関係

- ・障がいのある方々が就労・訓練できる場所が少なく、経済的に自立する事が困難。
- ・障がい者世帯の高齢化や単身障がい者世帯等が増加し、車の運転などができない。
- ・養護者が急病、急死したが在宅の希望強く、不測時の対応が困難なケースがある。

(2) 生活困窮関係

- ・ひきこもりやニート等の実態を把握している機関が存在しないことに加え、支援する専門的機関がない。
- ・困窮しながらも外部にSOSを発信できない人が多い。
- ・社会資源（困窮者支援の出口）の少なさから結果として支援完結が難しい。

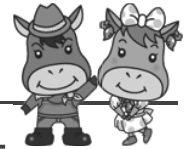
(3) こども・子育て関係

- ・親子が安心して集まれる身近な場所、イベントの開催。
- ・自分の気持ちの行き場がなく家庭内暴力につながるケースもある。

(参考) ケアマネアンケートでの意見（あったらいいサービス抜粋）

民間の自由に動いて頂ける団体が多くあると助かる。多くの見守り体制（パトロール隊等）。移動スーパー。訪問介護以外の生活援助サービス。外出支援。ワンコインのボランティア。移送サービス。各地区にサロン会を立ち上げてほしい。在宅で安価で気軽に利用できる家事支援。地域内で集まって交流と運動ができるサービス。買い物支援。見まもり体勢（民生委員とは別に）づくり。一人暮らしの人の病院受診への付き添い。一人暮らしの訪問、安否確認（特に認知症）、病院受診や買い物の支援、服薬介助（一部介助）支援等のボランティアの充実。

4. 今後に向けて



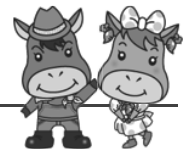
1. 今後、協議体や生活支援コーディネーターとしてどうするか。

- (1) この会議をどのタイミングで協議体に位置づけるか。
⇒協議体という言葉にとらわれず、行政職員や専門職がメンバーとして参加することで、自然と取り組みに繋げることができるのではないか。そのためにも取り組みを課題とマッチングして考えるようにする必要がある。
- (2) 生活支援コーディネーターを選ぶ場合に、本人の立場（現役者等）を考える必要がある。また、充て職で選んでもうまくいかないと思われる。
⇒会議を重ねていくうちに、適任者が見えてくる。積極的に参加する方は、熱意があり勉強しているし、リーダーシップを持っている。
- (3) 協議体と実際に支援に回る側（担い手）との役割分担が必要。
⇒協議体であり、担い手でありという両機能を保有していてもよいと思われる。また、担い手として得意分野を持つ団体がいれば、そこに任せて、ネットワークを使って活動の輪を広げていければ良いと思う。風通しのよい組織づくりを。

2. 課題

- (1) できることから優先順位を決定し、具体的な整理が必要（人、資金）。
- (2) 既に広く地域づくりに携わっている方や団体に現状（課題、助け合い活動の重要性・可能性）を知ってもらうこと。
- (3) いかに行動しやすい支援を行政・社協としてできるか。
- (4) 地域包括支援センターの役割りをどこに位置づけるべきか。
- (5) 行政の経験と認識不足（助け合いを市民に求めるという点）。
- (6) 地域包括ケアは高齢者だけの問題ではないという認識不足（主に行政）。共生型の社会づくり、地域づくりとして、横断的な支援が必要。
- (7) この仕組みによる地域づくりから、行政の様々な課題（経済活性化、観光資源づくり等）の解決につながる可能性があることを、全庁的に理解を促す必要がある。

5. まとめ



- ◆ どの自治体でも簡単に始められる。
- ◆ 地域づくりの基盤づくりにも最適だが、目的を忘れないように。
- ◆ この形が結果として吉と出るかは現時点ではわからない。
効率的で効果的な行政運営が求められている中で、
住民主体による協働というスタイルを採用した。
- ◆ 会議を住民主体で進めていくことは大事。
しかし、そこには行政職員として一定の目線が必要。
積極的に行政職員はメンバーとして参加し、**住民がやるべきこと**
やでること、行政がやるべきこと、専門機関がやるべきこと、
を常に整理していくべき。
また、結果として、どうできたのか、できなかったのか、をきちんと分析していく必要がある。
- ◆ 最後に、色々と考えて前に進まないより、行動しながら解決していくことが求められる。“地域づくり”とはたぶんそういうもの。
- ◆ 市民の熱意と行動力に感謝します。

ご清聴
ありがとう
ございました

みんな都井岬に
遊びに来てね♪



といくん みさきちゃん
(串間市ゆるキャラ)

